

1: 出席者

加藤^a・千葉・平林^b・大塚^c・吉田(亨)^c、鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 宇宙理学専攻が OMEG07 を 12 月 4-6 日に開催することとなった。(加藤)
- IAEA のテクニカルミーティングの参加要請が来た。(加藤)
千葉、大塚が参加することを返事した。
- 核データを XML を用いて再定義することを考えている。(千葉)
- 年次報告についてはレフェリーチェックが終わり、明日印刷を開始する。(鈴木、平林)
- 辞書ワーキンググループ報告(第 3-8 回)。詳細は別資料参照。(大塚)

3: 議論

- 仮コードの取り扱いについて
新たなフラグ "P" (provisional) を作成し、仮コードを FLAG=P で明示するようにする。
- 超重元素のコード化について(2年前の9月の委員会で部会に差し戻された議論について)
ntx-wg より提案のあった 278UUT を採用する。
(候補としては、1) 278X (+コメント)、2) X (+コメント)、3) 278UUT (+コメント) が挙げられていた。)
- RCNP で測定された (p,n)、(p,p') の微分断面積の数値データについて
原研の遮蔽グループからの依頼により、理研の天津秀暁氏に RCNP で測定された (p,n) と (p,p') の微分断面積の数値データを探して頂いた。
データは学位論文になっているが、未出版であり、現在投稿の準備が進められている。
以前に private communication 扱いとした D2031 と同様、
 - EXFOR にのみ採録し、NRDF には採録しない。
 - 出版された時点で NRDF に採録する。という扱いを行う。
- 共鳴エネルギーの採録について
入射エネルギーが、実験室系で与えられている場合は RESN-ENGY を使わずに INC-ENGY-LAB を用いる。(エネルギーが重心系で与えられている場合は INC-ENGY-CM もし

くは RESN-ENGY を用いる。)

- 新規コード

INC-ENGY-CM-MIN/-MAX (H 型)	: Incident energy in c.m. system (lower/upper limit)
UB/(MEV/C) (V 型 14 類)	: ub/(MeV/c)
ETA (V 型 13 類)	: eta
UB/(GEV/C) (V 型 14 類)	: ub/(GeV/c)
(DELTA-)DSIGMA/DP (H 型)	: (Error in)dsigma/dp
2JPNAKT (V 型 1 類)	: Akita Univ., Akita
H2O (V 型 8.3 類)	: H2O

- 修正コード

COS を含む以下のコードの展開形に angle を追加する。

COS-LAB-MIN/-MAX (H 型), COS-CM-MIN/-MAX (H 型), COS (W, F 型),
SQ-COS-LAB (H 型), SQ-COS-CM (H 型), SQ-COS (H 型), COS-LAB (H 型),
COS-CM (H 型), COS-LAB-MIN/-MAX (F 型)

(例: Cosine in lab system を Cosine of angle in lab system に)

- 大塚が新しい NRDF 作図システム、NRDF/EXFOR/ENDF/NRDF 検索システムのデモを行った。

4: 次回

2007 年 10 月 1 日 18:30~